

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

湖鳥会会報

第7号 平成10年10月 鳥取市湖山町南4丁目101番地
鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会 湖鳥会



(鳥取空港側より南向きに望むキャンパス・電気電子棟)

<目次>

- 学科長あいさつ
- 講座主任あいさつ
- 望湖1-国際交流-
- 学生の海外渡航記
- 社会人博士課程を修了して
- 博士課程進学学生近況
- 同窓生の声
- 学科職員紹介
- 平成9年度事業報告および平成10年度事業計画
- 平成9年度決算報告および平成10年度予算案
- 湖鳥会からの通信

湖鳥会会員 現況

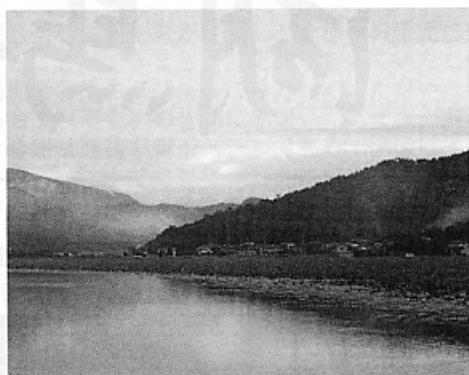
1998年10月現在

同窓会会員数	2258名
電気電子工学科在学生数	490名
特別会員数	19名
賛助会員数	39名

30年遠き昔の卒業生髪白くなり往時を語る

電気電子工学科 学科長 徳高平蔵

平成7年に工学部は30周年を迎えました。私、自身も鳥取に来てから27年になります。亡くなられた当時電子工学科の加藤先生が、私が着任の時に言われました。「君は経歴を見ていると長く一所にいないようだが鳥取には少なくとも3年は勤務して貰わないと困りますよ」。この言葉はつい昨日のように思い出します。約、30年近く経ったのです。去年は、就職担当、今年は学科長と忙しくしております。特に去年は就職絡みで沢山の卒業生の方々にお会いしました。全然成長していないまだまだ漬垂れ小僧の私と違って、幾分、髪が薄くなったり、白くなったり、その分、貫禄も付いている卒業生諸君の言葉の端々にはずっしりとした重みを感じます。今、キャンパスにいる、中には茶髪、金髪も見える学生諸君も30年経てばこのように立派になるのでしょうか？是非共なって欲しいものですが、…



福井の展望台から見た雨上がりの湖山池。
背景に吉岡方面、中国山脈を望む。
卒業生の皆様、またお出かけ下さい。

30年と言うのは振り返って見ますと、大変な時間です。大学も研究至上主義から教育内容の充実へとそのスタンスを変えつつあります。電気電子工学科でも高専からの編入生の受け入れが毎年定期の事業になってきました。さらに、大学を理解してもらうための各種行事として、夏休みの大学説明会、高校生体験学習、そして11月の大学祭の頃の大学公開があります。また、社会人のリフレッシュを目指して博士後期課程は勿論、博士前期課程（修士コース）への入学も平成11年度から行うことが決まっております。さて、当、電気電子工学科ではこのような時勢を受けてこの4月から公開研究授業に取り組むことになりました。小、中学校では日常的に行われていることですが、何せ大学では初めての取り組みなので試行錯誤で大変です。現在、数人の先生方の分が終わった所です。公開授業、アンケート調査、その結果を集計しての夕刻からの2時間ほどの反省会と非常に充実しております。

所で、会社では当然のことでしょうが、研究の面でもスクラップアンドビルドが行われています。電子工学科の卒業生の方々は、私が表面分析を主にしたテーマであったことをご存知でしょう。それが、色々紆余曲折があり、情報、つまり、ニューロコンピューティングの世界に今は入っております。フィンランド工科大学（HUT）のコホネン先生が始めた自己組織化マップ（SOM）の世界です。しかし、不思議なもので表面分析で得られた色々のスペクトルを、このSOM法を使って解析してみると、今までとは全く違った角度からの見直しが出来ることが最近分かってきたのです。つくづく一所に固執せず、違った山にも登ってみて昨日まで登っていた山の高さを見直すことの大切さを感じている今日この頃です。卒業生、湖鳥会の皆様、健康に留意され、各自が今、置かれている分野で研鑽され、ますますのご発展とさらなるご活躍を期待、祈念致しております。

材料に入りて情報にテーマ変え合わせまとめて結果となせり

P.S. 徳高の近況は私のホームページ

<http://app4.ele.tottori-u.ac.jp/japanese/members/staff/tokutaka/>
を参照下さい（最近、少しさぼっていて更新していませんが）。

講座主任（専攻長）挨拶

大学院博士後期課程（博士学位取得）の有効活用

電子情報システム工学講座
講座主任（専攻長） 安東 孝止

鳥取大学大学院工学研究科へ博士の学位が取得できる大学院博士後期課程が設立されて5年が経過しました。この間、工学部における多種、多様な分野で諸先生、院生の研究開発への意気込みは従来にまして飛躍的に充実してきた感があります。本稿は、電気、電子工学科（あるいは専攻）を修了され、各企業において活躍されておられる諸先輩方に、上記大学院博士課程（後期過程）を今後の研究開発における一助としてご活用頂くために大学院博士後期課程の制度及び現在の院生の状況を紹介させていただきます。



大学院博士後期課程は現在の8学科（機械工学、知能情報工学、電気電子工学、物質工学、生物応用工学、土木工学及び社会開発システム工学）をベースにして、以下の3つの専攻を構成しています：

- *情報生産工学専攻 [生産システム工学、知能情報工学、○電子情報システム、生産環境システム]
- *物質生産工学専攻 [分子工学、生物工学]
- *社会開発工学専攻 [社会基盤工学、社会システム工学]

電気電子工学科は、上記情報工学専攻で電子情報システム講座（○印）を運営しており本年までに11名の方が、博士号を取得されました。現在は約17名の院生が、博士の学位取得に向けて精力的に研究を進められています。このうち13名は、大学（あるいは大学院前期課程：修士）を既に修了され、企業へ就職されている社会人や外国留学生で、企業や本国の大学に席をおいたままで博士後期課程に在籍し、研究を進めています。つまり企業等へ在籍したままで（給料をもらいながら）大学院博士後期課程で研究されているわけです。このような制度は社会人にとりましては大きなメリットで、今後益々拡大していく制度と思われます。工学に携わる技術者にとって博士号は、今や一定の資格（ライセンス）として定着しつつあり、本学科卒業の諸先輩が、大学院制度を最大限に活用され、多くの開発分野で益々活躍されますことを願っております。

大学院博士後期課程のお問い合わせは、本学科の先生、専攻長または学科事務等に気楽にアクセスして下さい。

望湖1-国際交流-

N君との再会

電気電子工学科 教授 副井 裕

「先生！先生！」と大声で私を呼ぶ声がある。まさかこんなところかと思ひ振り返ったら、そこにはケニア人のN君が運転する車があった。1998年3月30日夕刻、場所はアフリカ・ケニア共和国の首都ナイロビの町外れにあるショッピングセンターでの出来事である。その日私はナイロビ郊外40kmにあるジョモケニヤッタ農工大学（JKUAT）での仕事を終え、車に乗せてもらってホテルに帰る途中であった。同乗のK先生が買い物をしたと急に言い出され、幹線道路からはずれて、たまたまここに立ち寄ったのであった。車からはN君、奥さん、二人のお嬢さんが降りてきた。娘達を学校へ迎えに行った帰り道で、お金を引き出しに銀行に立ち寄るところだったようである。長女に向かって「ムソニ！」と私が名前

を呼ぶとN君一家のみんなが一瞬びっくりしたようであった。私は11年前にナイロビのN君の家に行き、生まれて半年の長女を抱っこしたことを思い出していた。それで名前がすぐに出てきたのである。大きく成長した長女の姿に、月日の経つ速さを実感していた。また父親の彼もすでに40才となっている。

N君は日本の国際協力事業団(JICA)の研修員として来日し、同僚のM君とともに1984年1月から12月までの1年間、鳥取大学の私の研究室で電気通信・回路の勉強をしたのである。彼らは恐らく鳥取で1年も長期間過ごした最初のケニア人でなかったかと思う。彼は当時26才、独身であった。彼らを研究室に受け入れるに当たって「絶対に気を許してはいけません」、「色々無理な要求をするので、それに負けてはいけません」などと忠告してくれる方も居て、彼らとどのように接するか、私も学生も緊張の連続で瞬く間に1週間が過ぎた。私はふと誰よりも彼らが緊張し不安に思っているのではないかと思ひ当たり、研究室の先生方や学生にも協力してもらうことにした。彼らはビールを飲むとのことだったので、早速歓迎コンパを企画した。まれにみる大雪の夜であったが「今日からあなた方は研究室の家族の一員だ」と歓迎の挨拶をすると、彼らはそれぞれ格調の高い感謝の挨拶をした。そしてその日から日本人学生もケニア人も心の扉を開き、打ち解けて話すようになった。それ以降、研修も個人的な交流もすべてうまく行くようになったことは言うまでもない。N君は明るい性格ですぐに日本の生活にとけ込んだ。東京に着いたその日から地下鉄を自由に乗り回せたというし、日本語の会話もすぐに上達するし、その適応能力の高さに驚いたのであった。また、生まれたときのマザー・タンク(部族語)、東アフリカの共通語であるスワヒリ語、それに旧宗主国の関係からの英語と少なくとも3つの言葉を自由に話し、日本語は4つ目の言葉だという。当時の私はアフリカ、いやケニアのことをほとんど何も知らず、彼らから聞く話に驚くばかりであった。電気電子工学に関わる専門の点でもN君はよく勉強をし、理解力も優れており、ほかの先生方の評判も非常に良かった。これがケニアやN君と私の「出会い」であった。

1988年4月にN君は日本の文部省の奨学金を得て再来日し、鳥取大学の修士課程へ入学した。2年間で2つのテーマの研究に取り組み、イギリスの学会誌に論文が掲載されるなどの素晴らしい成果をあげた。ビールの好きな彼は居酒屋の前を通るとついつい入りたくなるので、裏道を通ってアパートに帰るなどの隠れた努力をしていた。その居酒屋には彼発案の「サファリポテト」というメニューが今もある。彼のアパートは風呂、トイレ、洗濯等が共同のところであった。ある時N君が大家(女性)にアパートの家賃を払いに行ったところ、すぐにアパートを出て欲しいと言われた。これを聞いて、私はその理由を尋ねに大家さんの家まで出かけた。「N君が居ると水が臭い」、「N君のあとに洗濯するとエイズがうつる」などの理由でアパートの住人が次々と出ていくというのである。N君が出てくれると日本人学生の定着率が良くなるなどの判断である。大家はこれらのことをヒステリックにわめき散らすのである。当然私も反論したが大家は聞く耳を持たなかった。人権問題だと思い、市の当該機関に持ち込みもしたが解決にはならなかった。私はN君に「こんなことを言われては腹が立つし、居心地が悪いだろうから新しいアパートに移ったら」とアドバイスした。しかし彼は「自分はこのアパートが気に入っているし、大家とは家賃を払うとき顔を合わせるだけだからこのままで良い」と遂に修士課程を終えるまでそこに居たのである。この問題を通して彼は私よりずっと冷静で、相手を許す心の広さを持っていることに感心した。その後水が臭いのは給水塔が古くなっていることが原因であることが判明したし、日本人学生がアパートを出ていったのは大学の周囲に新しいワンルームマンションが多く建設されたことによることも分かった。

N君は1994年にイギリスの奨学金を得てイギリスの大学へ留学し、3年間で見事博士の学位を取得した。彼の留学に当たっては、奨学金の推薦書を作成したことや研究テーマの相談にのったことが思い出される。1997年秋にケニアへ帰国し、今はJKUATの教官に復帰している。

私のケニア滞在も残り少ない頃、少しの時間的余裕が出来たのでほんの1ヶ月前に入居したという彼の新居を訪問した。治安の良い住宅街の一角にある6階建ての新築マンションで、駐車場も完備している。チャイ(ミルクティ)を飲みながら共通の話題である鳥取の話や家族について話した。その内彼の奥さんも話に加わり、イギリス留学の時の苦労話や楽しかったことを聞いた。特に冬の寒さと天候の不安定さは鳥取の比ではなく、彼らにとって厳しかったようである。また3年間で学位を取得しなければ奨学金が打ち切られるというプレッシャーはかきつらきつ、夜遅くまで必死になって研究に励んだとのことである。屋上に上がりナイロビの心地よい風(赤道直下にありながら気温15度~20度)に吹かれながら3人の会話はさらにはずんだ。私は故意に話題を「差別」に変えてみた。「人間は誰にも差別心はある。現に私は我々の部族は優秀だと思っているし、また同じ部族の中でも私の家族は他より優秀だと思っているかも知れない。人間には大から小まで無数の差別心がある。この差別心があることを認めながら、お互いにうまくつきあって行かなければならない。」と彼は主張するのであった。

人口約200万人の大都会ナイロビでのN君および家族との偶然の再会は、「山と山とは(動かないので)出会わないが、人と人とは出会えるものだ」という私の好きなスワヒリ語の格言そのものであった。今日に至るまでずっとN君ともJKUATとも関係が続き、11回も現地に行く機会ができるとは幸せであると思うこの頃である。

社会人博士課程を修了して

鳥取大学工学部に平成6年4月に博士後期課程(一般にはドクター・コース)が設置されたのが存じだと思います。ここでは、湖鳥会の会員で社会人ドクターとして再び大学に来ておられる方、修了された方の記事を掲載いたします。

大塩 祥三

平成8年度 工学研究科 博士後期課程入学

現在、松下電器産業 研究本部 照明研究所に勤務。

E-mail: oshio@rlr.mei.co.jp



もう一度、学生をしてみました

大学院を修了後、松下電器産業(株)に就職して10年になります。現在は、松下電器産業(株)、研究本部、照明研究所に所属し、月に一度の頻度で鳥取大学大学院工学研究科博士後期課程の社会人コースに通学しています。照明研究所へ転籍になった3年前から蛍光灯(バルック)に関わり、会社の理解も得られ幸いにも社会人選抜コースへ入学する機会に恵まれました。大学では、小林洋志教授、田中省作教授をはじめ多くの先生方の懇切丁寧なご指導のもと、蛍光体や蛍光灯の勉強を一からやり直しています。

工学のおもしろさを学ばせていただいた鳥取大学もずいぶん様変わりしました。なかでも実験設備の充実が驚いています。電子顕微鏡、X線回折装置、ICP発光分光分析装置などの最新の分析装置、分子線エビタキシー装置や原子層エビタキシー装置などの高度な薄膜製造設備の充実には目を見張るものがあります。ピカピカの装置のそばには、錆びた装置や手作りの装置があり、見覚えのある怪しげな装置名(例えばZ-Sputter TMO800 Γなど)を見ると、つい、うれしくなります。研究室の居室では各自がコンピュータの前に座り、いつも何やらカラフルな凝った絵を黙々と描いています。ロットリングペンやチャート用紙が見当たらないのが少し残念です。相変わらずなのは机の前の

スチール棚です。過去のデータや文献が“CLEAR BOOK”にきれいに整理され、天井付近までぎっしり並べられています。ところどころに見覚えのある手書きの文字や名前があり、これらを見つけるたびにホッと一息ついてしまいます。

松下では蛍光ランプの研究開発業務に従事しているとはいえ、年々、会社経営に関わる仕事(安全衛生や環境保護に関わる仕事など)の割合が増え、工学の専門技術からは離れる一方です。鳥取大学工学部在籍中から縁のある蛍光体の基礎を学べる最後の機会と思い入学を決意しましたが、思った以上にきつのが実情です。平日は会社員として、特許出願を含めた研究開発業務に関わりながら、関西学研都市内に出来たばかりの新しい研究所の整備と作業主任者などの資格取得、および、環境マネジメントの国際規格ISO14001の取得に関わる仕事、帰宅後は主婦として炊事洗濯掃除など、休日は冠婚葬祭交際が年々増える中、学生として、海外の専門雑誌への投稿や専門分野あるいは英語の勉強などに追われ、息をつく間もない状況です。趣味の登山も当分おあずけです。大学と企業の相互理解が不十分なのが原因で両者の狭間に立ち、一年近く悩むこともありました。その反面、数多くの海外の方々や、民間会社の社長の方、公の研究機関で活躍されているの方々、また、10才以上年下の学生の皆様など、価値観の異なる多くの人に巡り会え、得たものはずいぶん多くあるように思えます。苦手だった英作文力やいっそうの専門知識が身に付いたことも大きな成果ですが、社会人選抜コースのおかげで、なによりも、新たな価値観を身に付けることができ、研究開発そのものを一歩後ろから眺めることができるようになったのが大きな収穫と思っています。この社会人選抜コースでの貴重な経験を今後の企業での研究開発活動や後輩の指導などに生かしていきたいと考えています。先生方のおかげで、国際会議での1件の発表も終え、7月末日現在、投稿論文も2つアクセプトになりました。現在、博士論文作成の最後の追い込みに入っています。卒業生の皆様の中に入学を検討中の方がおられましたら、“チャレンジ”してみられてはいかがでしょうか？

最後に、これまでお世話になりました先輩の皆様方、同級生および後輩の皆様方には、この機会をお借りしまして、日頃の疎遠をお詫び申し上げますとともに、今後のますますのご活躍をお祈りいたします。また、先生方には、これまでのご指導ご鞭撻に深く感謝いたしますとともに、3月末までよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。これからの母校の発展と皆様方のご活躍をお祈りいたします。

バルックともども今後ともどうぞよろしく願いいたします。

鷺見 育亮

現在、鳥取三洋電機(株) 研究開発本部 本部室に勤務。

E-mail: ysumi@tt.sanyo.co.jp

博士課程を終えて

現在 湖島会会長を仰せ付かっている鷺見です。「社会人ドクターの例として、今後入学したい社会人の参考のために」と会報委員から依頼され、少し書きかけたら入学初年度の8月のところまででA4一枚になりました。これはだめだと思い、かなり端おりましたことお許しください。社会人になってはや30年にもなります。この3月無事社会人博士課程を終了し、博士(工学)号をいただきました。「先生方からいいことが有るよ!」と言われておりましたが、これまでなにも有りません。今後のいいことを期待しているところです。

入学は今から3年前で48歳、まさに「50の手習い」寸前での博士課程への入学でした。同窓会のお世話をしていただいていた関係で、鳥取大学に博士課程設立に関し少しばかり関係していただいていたから、博士課程ができたなら「何となく入学できる機会もあるかな!」と考えていました。実際入学するには大きなハードルがありました。会社から博士課程入学のOKをとることも結構大変でした。各職場で研究成果を持っている人なら何とかなるでしょうが、この年で入学するにはそれなりの理由が有る訳ですが、恥ずかしくてここには書けません。別の機会にでもお話できるでしょうから、ここでは省略させていただきます。

最初にするのはテーマの決定です。会社でやってきた回路系の仕事の延長を研究テーマにしました。でも昔々の仕事でした。「通信機器の高性能化と多機能化とその集積化に関する研究」で具体的には「PLL周波数シンセサイザの改良」です。通常博士課程に入学する人は、以前に研究の経験がある人が多い。私の場合は入学してからはじめて研究を開始したことです。そして更に大変だったのは自分の研究テーマが大学にはなかったことでした。初年度、研究にはマスターの学生(M1)1名と2名の学部生をつけて貰いました。学生はPLLのことはほとんど(全く?)知りませんので、まず勉強会を週2回定期的に開催しました。会社が大学の近くにあり、また、研究テーマが会社の仕事に合っていたので、研究に関し会社からいろいろ配慮していただきました。学生には研究テーマについて勉強して貰う必要があり、研究に役立つレベルに持っていく必要があることでした。また、大学でPLLの研究をやりだしたときには、他の先生から「時代遅れのテーマ」と言われたこともありました。確かに、PLLは自分が会社で20年位昔に商品化していたテーマでした。「今更PLLとは!!とか時代遅れ」とは自分が一番よく知ってい

ることでした。研究して本当に博士論文が書けるか?非常に不安がいっぱいでした。でもどうしようも有りません。やるだけです。幸い私が勤務している鳥取三洋電機の先輩会社には、半導体を作っている三洋電機・東京製作所(群馬)があります。PLLの研究に際し、実用上役立つ研究テーマ(本当は研究に役立ついいテーマ!!)が有るか相談できる人がいて、本当に助かりました。「自分の知識は過去の物」しか持っておりませんでしたから。学生と一緒に研究すると言っても、学部4年生の二人は修士に行くとのことで、8月の試験までは試験勉強と平行して、PLLの勉強をして貰う日々です。PLLの勉強は鷺見のよく知っている三洋電機の小沢氏の書かれた本をテキストとして採用して行いました。また仕事の関係で鳥取に来られたおり著者のサイン会も行なったりしました。

いろいろなことをしながら、日々が過ぎて行きました。しかし研究テーマが論文になる気配はなかなか見えてきませんでした。研究が軌道に乗るには、約1年半かかりました。国内・海外発表、研究・実験等繰返す中、思わぬつながりで大学のある先生から、「電子情報通信学会に投稿していた論文がアクセプトとされたが、その人は鷺見という鳥大の人だが知っているか?」との情報をいただいた時には、ほっと一息したものです。それから、概念が分からぬまま進めてきた「研究」を勇気百倍で実践してきました。平成8年度は修士3名・学部3名、平成9年度は修士2名・学部3名で研究を行い、鳥取大学に「PLLの研究拠点を築けた。」と自負しております。紙面にうまく書ききれませんでした。最後に、「社会人ドクターを目指す人は、何をするかを明確にして企業人なら会社を説得できる準備を」されて挑戦されることを希望します。何かありましたら、アドレスにEmailください。



草野 浩幸

現在、鳥取県産業技術センターに勤務。

E-mail: kusano@t-iri.tottori.tottori.jp

社会人博士課程を終えて

今、この原稿をコペンハーゲンのホテルの一室で書いています。当地に到着してから、北欧らしい肌寒い日がつづいていましたが、五日目(7月8日)にして初めて快晴になり、外気温も15度を上回ったようです。今は1年中で一番日照時間の長い時期で、夜10時を過ぎても十分明るく、仕事帰りに広大な芝生の植わった公園でサッカーに興じる人々の姿がそこそこに見られます。

私がコペンハーゲンを訪れたのは、コペンハーゲン大学で開かれた”固体薄膜と表面に関する国際会議(ICSFS-9, 1998 7/6-10)に出席するためです。私の専門である有機薄膜の作製と評価について同僚と共に発表を行うため、鳥取県より派遣されました。

私が鳥取大学の社会人博士課程を修了し、博士号をいただいて早、四ヶ月が過ぎようとしています。振り返ってみると長かったような、しかしあつと言う間の3年間でありました。その3年間は時間との闘いでした。実験、発表、論文投稿に追いまくられ、当然、社会人である私には、与えられた仕事(鳥取県立公設試験研究機関研究員)もこなさなければなりません。当時、3才だった息子に朝、出勤するとき、”バイバイ、また来てね”と言われたほど、家族に対しての時間を割くこともままなりません。

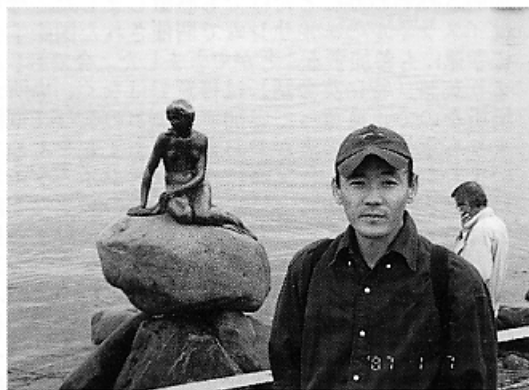
たしかに苦労はありましたが、今、私はなにものにも代えがたいものを得ることができました。それは博士号という称号だけではなく、いや、それよりもっと大切な研究者としてのskill、自信、謙虚さ、研究とは何か諸々…。まがりなりにも、海外での研究発表を行えるようにもなりました。博士課程が修了して、初めて、研究を遂行していく過程の難しさ、おもしろさを実感しています。まるで、高い山の頂に登り、雲上に出て、晴天を拝んだような心境です。

その結果として、私は鳥取県では初めて、今回、2度目のヨーロッパへの国際会議にいかせていただいています。4年前にはただあこがれにすぎなかったことが自分の現実としてここにあります。グローバルスタンダードが日本国内で声高に叫ばれています、研究や技術開発に携わる者として、”Dr.”は研究者にとっての国際ライセンスだと実感しています。

私は高校時代、サッカー部に在籍していました。とても下手でしたが…。その時、センターフォワードの同級生はいつも”世界”を意識し、こう言っていました。サッカーは世界のスポーツであ

り、フィールドは世界中にあると。研究もまたしかり。フィールドは世界にある。

最後に、社会人博士課程在籍中、多くのご指導、ご助言をいただきました鳥取大学工学部長 小林洋志先生、工学部教授 田中省作先生、工学部助教授 北川雅彦先生にこの場をかりてお礼申し上げます。また、社会人博士課程在籍中、いろいろとご迷惑をおかけした鳥取県産業技術センターの職員の皆さまにも感謝いたします。



博士課程進学学生近況

井上 亮

平成10年度進学 博士後期課程 情報生産工学専攻
電子情報システム工学講座 D1

E-mail: rinoue@ele.tottori-u.ac.jp

博士後期課程に入学して

博士後期課程に入学させていただいて、もう5カ月がたとうとしています。研究の経験を積み、英語能力を高めて国際的にも通用するような技術者になりたいと思い、入学を決意しました。博士課程に入学したとはいえ、修士課程からそのまま入学したため周りの環境がほとんど変わらず、まだ学生気分が抜けません。あらゆる面で先生方にご迷惑をかけながら何とか研究、勉強を続けています。

研究テーマは「ZnMgS:Mn 薄膜の作製とEL素子への応用(仮)」であり、小林洋志教授(現在工学部長)の指導のもとにエレクトロルミネッセンス(EL)ディスプレイに関する研究を行っています。ELディスプレイは自発光型であり、様々な優れた特性を持っていますが、カラー化が課題となっています。私はフルカラーELディスプレイの発光層の研究を行っています。いままでに幾つかの国際会議で発表することができました。

昨年度はイギリスの Salford 大学で発表を行いました。海外は初めてでしたので現地に無事に着くかどうか不安でしたが、なんとか帰って帰ることができました。私を知る由もないのですが、実は、Salford 大学は Joule が熱の研究をおこなった場所として由緒あり、また Rutherford が加速器の研究をした所でもあり、こんな田舎町でとどろきました。皆さんもジュール熱やエネルギーでは悩まされたとおもいますが、ここでは参加できたということだけでも感激しました。今年はイスラエルのエルサレムで開催された国際学会に幸運にも参加することができました。今でも、あまり英語（特に英会話）は得意ではなく、場所が場所なので正直言って参加することの喜び、期待よりも寧ろ不安の方がおきなウエイトを占めていました。しかし、実際にイギリスやイスラエルに行き、滞在することにより、英語の必要性を身を持って体験することができて、英語に対する接し方が変わりました。困難には誰もがなるべく立ち向かって行こうとは思いません。しかし、立ち向かったからこそ得られるものがあることを実感できました。英語能力だけでなく、本来学ぶべき研究技術や学問上も克服すべき大きな山が沢山あります。博士課程が、いままでの修士課程までとは月とスポンぐらいの違いがありそうだとということが序々にわかりかけてきました。頑張ろうと思っておりますので、同窓生の皆様もよろしくご指導お願いいたします。最後になりましたが、皆様のご健勝をお祈りいたします。



深田 晴己

平成 10 年度進学

博士後期課程 情報生産工学専攻

電子情報システム工学講座 D1

E-mail: fukada@ele.tottori-u.ac.jp



博士後期課程への思い

私は、現在、博士後期課程情報生産工学専攻 1 年次に在籍しております。思えば、鳥取大学に入学してから、早いもので 6 年半経過しました。大学受験の際には、まさかこんなに長く、鳥取に在住することになるとは、思いもしませんでした。学部 4 年次に、田中省作教授の研究室に配属し、『研究』というものに直接触れることができ、物事を創造するという面白さを実感しました。また、その奥の深さも同時に認識し、それを追求するべく、博士前期課程、そして博士後期課程進学という道を選択しました。学部 4 年次より現在に至るまで、次世代の電子ディスプレイとして、現在、非常に関心の高い、薄型・軽量のディスプレイにおける発光材料の研究に従事しております。簡単に言えば、明るくて綺麗な色を持つ画面をいかにして作るのか、というのが研究テーマです。日常は、実験等で忙しいため、休日返上で研究室に来ることも常で、生活も非常に不規則極まりない状況です。しかし、これまで 4 度の国際会議（うち海外での発表が 3 度）を含め、様々な場において、その研究成果を発表するなど、これからの人生にとってかけがえのない財産ともなる体験を数多くすることができました。本年も、9 月 14 日～17 日まで、アメリカのオレゴン州にて、9th International Workshop on Inorganic and Organic Electroluminescence / The 4th International Conference on the Science and Technology of Display Phosphors が開催され、幸いにも参加することができました。今回は、ポスタープレゼンテーションであったため、2 時間近く、外国人の研究者と英語によるディスカッションをしました。その際、脂汗をかくほどの緊張の連続で、その場から逃げ出したい心境になりました。時折、ポスターを見に来られる日本人の研究者に話しかけられると、ホッとしたのを覚えております。今回の学会で、参加できた喜びと共に、改めて語学力のなさも痛感しました。博士後期課程で残されたあと 2 年半の間に、専門分野に関する基礎学力や語学など、今後、研究者の一人として生きていくうえで必要となる知識を学ぶことはもちろんですが、いろいろな物を観察、そして習得し、学生生活の集大成として、自分にとって、よい思い出となるように、精進していきたいと思っております。

最後に、新しい電気電子工学科棟と充実した研究環境のもとで、『研究』に従事できるのも、諸先生方、また卒業されていった同窓生の皆様のこれまでのご努力のたまものであると思います。この場を借りて、御礼申し上げます。

同窓生の声

このコーナーでは同窓生から湖烏会に寄せられた記事を掲載します。編集委員会からお願いして書いていただいた記事が多いのですが、それら寄せられたものを内容を改竄することなく載せることを趣旨としています。記事は大学在学の各理事等に電子メールや郵便で届いたものを載せています。

長谷川 弘 (旧姓：成田) 様から

1982年3月 修士終了

現在、セコム山陰株式会社

システムデザイン課 勤務。

E-mail: hasegawa@secom-sanin.co.jp

修了後、富士通コミュニケーション・システムズ(株)に就職し、15年間横浜での生活を続けていましたが、家庭の都合で地元(鳥根県松江市)の企業(セコム山陰)に転職しました。セコムというのは、皆さん御存じのように警備業をメイン(日本で最初に起業)に業績を伸ばしてきましたが、現在は人のネットワークを活用した社会システム産業(医療/福祉/生活ネットワーク)への取り組みに力を注いでいます。

私はこの中で以前の技術を活かせる情報ネットワークの企画~構築を担当し、多数のお客様のわがままと戦っています。ということで仕事の話はさておき、15年ぶりに田舎で過ごす感想でも書きます。

- ・まず、車が無いと暮らせないことが身にしみて解り、ペーパードライバーから必死で抜け出しました。確か大昔に岸田先生の車(ギャラン)を駐車場から出そうとして身動きがとれなくなったのが、最後に車をさわった日だと思えます。ですから、車を運転することを決心するのに最も時間を要しました。
- ・次に、通勤時間の少ない生活が非常に健康に良いことが解りました。以前は朝7時3分に家を出るので7時前には起きて身支度をし、朝食も取らないで(まだ食欲が無い約1時間、満員電車で揺られていました。今は、朝7時30分に起床し1時間の余裕をもってゆっくり食事をしてから8時30分に家を出て行きます(自転車)。おかげで帰ってから3Kgも体重が増えています。

ところで、先日久しぶりに母校を訪れたときにはビックリしました。ものすごく立派な校舎を電工学科が陣取り、各部屋にLANが引かれ、先生

方が皆パソコンを利用しておられたことです。私の居た時とは全く違う光景でした。今度訪問する時にはどうなっているのか今から楽しみにしています。



木村 茂様から

昭和50年3月 電気工学科卒業

現在、三井造船(株)に勤務。

三井造船エネルギーエンジニアリングセンター/計装電気設計部について近況を報告します。

主な仕事は、事業部の主力製品である、ボイラー・タービン・造水装置等を、海外及び国内の客先へ事業用発電設備、自家用発電設備、バージ搭載発電設備、造水装置として納める事です。その為に必要な基本設計、詳細設計、調達(注文仕様書作成)及び現地工事、試運転などが関連業務としてあります。我が部署には電気・電子卒が3名います。海外向けの仕事が多く、現在は、3名のうち2人が海外向けJOBを担当しており(インドネシア向け Boiler-Turbine-Generator のBTG設備を、バングラディッシュ向けに発電バージを担当)、国内では三井石油化学・岩国向けにBTGを担当しています。海外JOBが多い為に、海外出張の機会も多く、中近東・東南アジア方面へは何度となく行く機会があります。遠くはエジプト、近くは韓国・シンガポールへの出張もあります。又、コンサルタントとの技術打ち合わせが、コンサルタントの国で行われる事もあり、その際には、イギリス/ニューキャッスル、ドイツ/フランクフルトなどヨーロッパへの出張も何度かあります。従って英語を使う事が当たり前になっていますが、慣れと経験で、なんとかなるものだなと言うのが実感です。学生時代にもっと勉強しておれば、楽に上達する事は間違い無いので、学生諸君には今からでも遅くは無いです。しっかり勉強する事を勧めます。実際の仕事としては、計装の分野では、DCS(Distributed Control System)を使って、ボイラー・タービン及び造水装置の制御ループを計画・設計し、各種現場計器・分析計等の発注、手配を行います。電気分野では、発電・受配電設備の計画・設計の他に、付帯設備として、照明・電話・時計等々の計画・設計などを行っています。ほとんどが購入品である為、国内及び海外への発注作業も含まれます。購入品

の発注先としては、東芝、西芝、明電舎、富士電気、日新電機、藤倉電線、古河バッテリー、A B B、シーメンスなどが電気品で、横河、山武、日本ペーラー／極東貿易、東芝、シーメンス、大倉ローズマウント、フォックスボロー、フィッシャー他各種計器メーカーなどが、計装品です。

プラントメーカーとして、客先から仕事を受注し、計画・設計し、各種製品を手配・発注し、現地にて建設・試運転を実施の上、引渡すといった事を行っています。仕事はきつくて、大変ですが、やり終えた後の達成感は、なんとも言えないくらい良いものです。各会社を訪問する機会も多いのですが、なかなか卒業生と会える機会はありません。同業各社の中で、何か新しい製品などありましたら、気兼ね無く声をおかけ下さい。



高浜 善雄様から

昭和 47 年 3 月 (第 1 回) 電子工学科卒業

現在、鳥取三洋電機 (株) 研究開発本部

知的財産部 知的財産課 に勤務。

E-mail: ytakaha@tt.sanyo.co.jp



工学部同窓会副会長に就任して

この度、副会長という大役を仰せつかりました、高浜と申します。電子工学科の第 1 回卒業生 (昭和 47 年卒) で、地元の鳥取三洋電機に勤務しております。

卒業以来、地元にながら大学とは疎遠になり、ご無沙汰していたのですが、この度副会長就任の要請を受け、地元にいる者として、何かお役に立てることが有ればと考えお引き受けした次第です。

さて、久しぶりに大学の先生方とお話して驚いたのは、私が通学していた時よりも、学科も大幅

に増え修士・博士課程も設置され、本当に充実した学部が発展しているなどということです。私の会社からも産学共同研究として、いろいろお世話になっています関係で、ある程度は知っていたのですが、先生方のお話を聞き、その充実ぶりが良く分かりました。

月日の経つのは早いもので、私の学生時代から 30 年程経ちますが、学生時代の思い出は、自動車部に入り、中四国の大学とのラリー大会への参加で、見知らぬ道を地図を頼りに指定されたスピードで、如何に正確にチェックポイントを通過するかを競い、何度か賞を貰ったこと、また 2 年・3 年の夏休みを利用して、自動車部の車で九州から北海道まで、近くの大学に泊まりながら、日本一周の遠征をしたことが懐かしく思い出されます。

卒業後は、鳥取出身ですし地元に残る必要があります。鳥取三洋電機に就職したのですが、当時は現在の様な就職難でもなく、非常に良い時期だったかなと感じております。

会社は所謂家電メーカーですが、最近では家電商品から O A 機器、液晶表示器、半導体レーザー等の電子部品まで、かなり広範囲の商品を開発・生産しております。私が入社して配属されたのが、特許課 (現在は知的財産課に変わっております) で、爾来特許関係の仕事に携わっております。

工学部の在校生の皆さんは、就職されると技術部門に配属になり、設計業務に就かれる方が多いかと思いますが、技術部門では特許等の知的財産権について否応なく関係することになりますので、ここで少し私の仕事と知的財産権について紹介してみたいと思います。

技術部門に於いて、製品の開発課程で生まれた発明を、特許として権利化することと、他社の特許権が自社の製品に関係しないか否かの検討を行うと共に、特許係争事件への対応を主な仕事としております。知的財産権には、特許以外にデザインが関係する意匠権、ブランド或いは製品の愛称が関係する商標権、更にはプログラムソフトが関係する著作権等があり、自社の製品に関するこれらの権利関係の管理の仕事を行っております。

私が入社した当時は、特許部門はどちらかと言えば技術部門の裏方的な仕事だったのですが、この数年は各社が特許等の知的財産権を重視するようになり、権利行使が活発になるに伴い、知的財産権が会社の経営にも大きく影響するようになって、やっと重要視される部署になってきました。また最近では新聞等でも知的財産権に関する記事が頻りに掲載されるようになりましたので、皆さんも目にされたことが有るのではないかと思います。

このような知的財産権を専門に扱う国家資格として「弁理士」という資格がありますので、興味のある方は研究してみられては如何でしょうか。この資格は非常に難しく簡単には得られませんが、資格を取れば会社内で弁理士として活躍するとか、特

許事務所勤務するとか、自分で特許事務所を開き独立することもできる等、非常に有効な資格ですので、関心のある方はチャレンジされることをお勧め致します。

私が特許の仕事を通じ感じましたことは、技術部門が開発している最先端の技術について行かなければならない為、学生時代よりも社会人になってから勉強が大変だということです。もちろん学生時代に学ぶ基礎が重要な言うまでもないことですが、それと事業がグローバルに展開されるようになり、やはり語学の重要性を痛感しております。在校生の皆さん英語は必須です。自由に操れるようマスターされることをお勧め致します。

ちょっと真面目な話になってしまいましたが、私の実態は、帰れば仕事の疲れを癒す為にお酒をこよなく愛し、CS放送をMDに録音した音楽を聞く事を楽しみに、日々平凡に暮らしております。また、最近インターネットにも凝り、いろいろな情報収集とメール交換を楽しんでおります。

世間では、経済低迷の折、我々団塊の世代は、現在リストラ対象の年代で非常に苦勞している姿がいろいろ報じられておりますが、私も自分なりに今後も頑張っていきたいと考えている今日この頃です。

最後になりましたが、副会長として自分にできることを微力ながらやって行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



一橋 英樹様から

現在、NEC 機械 FA メカトロ (事) 技術部
電気グループに勤務。

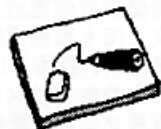
E-mail: hidehasi@mediawars.or.jp

早いもので大学を卒業してから、はや1年以上がたっとうしてしまいました。みなさまお元気に日々精進されていることと思います。私は今、NEC 機械 FA メカトロ技術部というところで、機械のソフト設計をしています。機械というのは、例えば、携帯電話Nシリーズの充電用電池を作る一連のラインなどです。私は機械は素人であり、大学で学んだ超伝導や半導体の知識は全くと言っていいほど役に立たず、最初の1年間は失敗しない日はないくらいでした。また、大学では味わったこともな

い拘束感、ストレス、また会社の思うがままの生活に嫌気が差すこともしょっちゅうで、寮に帰っての友人達との談話も転職や育毛剤のことでした。

そんな中、私は突然NEC 機械から、富山のNEC モリエナジーにとばされました。ここはNEC 機械のお得意さまで、機械の保全支援を依頼されていたことでした。このときの私はまだ、機械の機字も知らない状態だったので、いったい何の支援ができるんだと、半ば自暴自棄になっていました。が、この経験が私を大きく成長させてくれたのです。NEC モリエナジーの方々是我々にとってはお客さんであるにも関わらず、機械のことを懇切丁寧に教えてくださったうえに、板金加工といった技術まで伝授してくださいました。また機械の調整技術、不具合対処法などの習得は、他の設計技術者にはない強みともなりました。

そんな経験を経て、もっとお客さんの使いやすい機械設計を新たな思いを胸に、3ヶ月後に戻ったNEC 機械では、非常事態宣言が発令されておりました。なにやらびりびりした雰囲気サービス残業の数々、収入も減りました。しかし、技術者の維持をかけて、会社がどうなろうとどんなときでも自分を磨くことは怠らないつもりです。元極真会館館長故大山倍達氏の言葉を拝借すれば、「技は力の中にあり」です。それが将来良い結果を生むと信じております。ただそれまでにハゲないことを祈るばかりです。(今はまだ大丈夫だが)



平川 進様から

平成5年3月 電子工学修士修了
現在、富士通(株)に勤務。

E-mail: KXB00301@nifty.ne.jp

在学中、一番文章が下手だった私にまで、原稿を依頼して下さるなんてよほどお困りのことと思います。研究室でお世話になった先生方、特に西守先生と岸田先生とはたまにですが、e-mailのやり取りをさせて載っています。この間も、岸田先生から学会で東京に来られるとの連絡を聞き、関東周辺に住んでいる研究室OBの先輩や後輩と共に宴会を行って盛り上がりました。もっぱら宴会の連絡はe-mailです。最近、こちらに転勤なさった方など、私にご連絡下されば、この

ような宴会の折にはご案内できると思います。ただし、幹事役は後輩に譲りつつあります。

私はもともと実家のある大阪で就職したかったのですが、ちょうどバブルの弾けた頃でしたので贅沢もいえず、結局関東で就職することになりました。ところが、いざ関東に来てみると、研究室で一緒だった先輩や同級生も関東で就職していたり、その後、後輩も関東で就職したりと結構近場に集まっていました。

でも、私も含めてみんな仕事が忙しいので、なかなか頻繁には集まれません。今は半年に1度のペースになってます。ただし、ローカルに数人で飲みに行くことはよくあります。

さて、私は会社では大型コンピュータを作ります。でも大事な所は他の人が設計してますから、もしうちの製品でトラブルがあっても私のせいにはしないで下さい。私がやっていることはコンピュータの筐体設計、つまり、プリント板やいろんな電子ユニットを入れる箱を設計してます。箱の善し悪しによってコンピュータの調子が良かったり悪かったりすることはまず考えられません。問題なくて当たり前という所です。それでも最初の試作機ではトラブルが続出します。ユニットが思わぬ所でぶつかって取り付けられなかったり、取り付け穴とネジ穴がずれてたりする等のトラブルです。同じコンピュータの設計でも、大学で勉強した電子工学とはかなり距離を感じます。それでも大学の勉強が役に立つこともあります。コンピュータの出す放射電波ノイズのことです。いくら性能が良くても放射電波ノイズが大きすぎるコンピュータだと、製品として世に出すことはできません。そのため、プリント板や内部ケーブルから放射する電波ノイズを筐体でシールドする必要があります。そこで、大学の教科書を引っ張り出してきて周波数と波長の関係やらマクスウェルの方程式、波動関数なんかを発掘したこともあります。しかし、そんな方程式を全く知らなくても長年この仕事に携わっている人の方が、電波ノイズ漏出箇所をすぐに見つけ出していても簡単に対処ができます。世の中も進むもので、電波ノイズもある程度シミュレーションできるソフトが開発されてきました。会社の中にも賢い人がいまして、マクセルの方程式と有限要素法・モーメント法とかいうシミュレーション技術を合体させ、超並列計算機を駆使して電波シミュレーションを実用化しました。私もつい先日、そのシミュレーションきょうたいの利用技術の講習

を受けてまいりました。私が 筐体 設計をやっている間にも、世の中の技術がどんどん進歩しているのを実感している今日この頃です。

最後になりましたが、湖鳥会の皆様のご健康とご発展とご活躍をお祈り致します。



森 博志様から

現在、日立製作所 半導体事業部 システム LSI 設計部に勤務。

電気電子工学科の皆様お久しぶりです。私は'85年度に工学研究科電子工学専攻を終了しました森です。私は大学院終了後日立製作所に入社し、「半導体事業部リニア IC 設計部」(現在は「システム LSI 設計部」と改称)へ配属となりました。事業所は群馬県高崎市に有り、東京から新幹線で一時間と比較的便利です。また普段の通勤は郊外の戸建ての自宅から車で20分位と言うのが一般的な様です。

私の所属している設計部で扱っている製品分野はストレージ(HDD、CD-ROM、DVD等)、通信、マルチメディア関係等のアナログを含む信号処理関係のLSIです。私はHDDのプリアンプの「デバイス設計」を担当しています。デバイス設計の仕事としては、TEG(Test Element Group; 特性評価用パターン)のウェーハをプロセス・エンジニアと試作条件を相談しながら設計試作して、デバイス(トランジスタ、容量等)の評価を行い製品に適用していきます。雑用も多いですが、やっている内容は結構興味深いです。

また、担当製品分野のHDD用プリアンプも最近ではサブミクロンBiCMOSプロセス(バイポーラとMOS混載)が主流となっており、微細プロセスになるに従いアナログ特有の問題も色々と顕著になってきております。ペア性はもとより、最近一番ホットな問題はアナログ回路での「ホットキャリア」でしょうか。今後ハーフミクロンレベルのプロセスを用いた製品の開発を予定しており、頭の痛いところです。「微細且つ高速高耐圧」が要求仕様のため、プロセス・エンジニアからはいつも「無茶な要求だ」と言われて、議論は尽きないです。ただ、これも製品開発の醍醐味であり、狙いが旨く当たった時には非常に嬉しいものです。

戯言を一言。私の製品の顧客であるHDDメーカーは米国系が強いため、カリフォルニア/サンノゼの営業(ほとんどが米国人)との情報交換も多く、e-Mail、TV会議等で英語の必要性を痛感しています。TOEICは毎回受けていますが、普段の不勉強

がたたって、一向に上達しないです。学生時代は時間の都合が付き易いと思いますので、英会話も勉強されることを強くお勧めします。また、大学での授業内容は結構間接的に役立つものです。「基本は普遍」と言う事を実感しております。居眠り？しないで、しっかり聞かれることをお進めしておきます。最後に、電気電子工学科の益々の御発展と皆様方の御活躍を祈念しております。



学科職員紹介

大久保 美由紀

平成 10 年 (1998 年) 4 月 1 日 転任

電気電子工学科 事務官

配属されました !!

今年 4 月 1 日付けで電気電子工学科、学科事務に配属されました。それまでは、本部(事務局)において会計事務を担当しておりましたので、学部での庶務の仕事は初めてで戸惑いも多く、ご迷惑をおかけしております。幸い、皆様に大変親切にさせていただいており、本当にありがたく思っております。

ところで、現在大学では組織、事務が一元化の方向で進んでおり、大きな組織改革の時期を迎えております。今後更に厳しい状況に迫られる中、自分は何をすべきなのかを考えながら取り組んでいきたいと思っています。皆さんどうぞよろしくお願い致します。末筆ではございますが、同窓生の皆様の益々のご健康とご活躍をお祈りいたしております。大学にお帰り際には、新しくなり立派になった学科棟には見所が沢山ありますが、事務室にもぜひお立ち寄りください。お待ち申し上げます。



(湖山池側から見たキャンパス)



平成9年度事業報告および平成10年度事業計画

平成9年度湖鳥会事業報告

1. 会員名簿の管理

- 住所不明者の調査を実施（H10年3月）。データベース登録者 合計：2258名
- 電気工学科 卒業生：957名
- 電子工学科 卒業生：808名
- 電気工学専攻 修了者：167名
- 電子工学専攻 修了者：57名
- 電気電子工学科 卒業生：433名
- 電気電子工学専攻 修了者：415名
- データベース未登録者合計：48名
- 会員名簿（H10年12月発行）のための内容改訂作業。
- 次回会員名簿（H10年12月発行）作成のための内容管理。

2. 同窓会設立基金の納入

- 昨年度（1997/4/1-1998/3/31）の間に数名の方から同窓会設立基金を納入いただきました。
- （尚、設立基金徴収対象者はH3までの電気工学科、電子工学科、電気工学専攻、電子工学専攻の各卒業、修了者の1903名です。）

3. 会報「湖鳥会会報 No.6」の発行

- 湖鳥会会報 No.6 をH9年12月に発行。全会員に配布。

4. 新入会員の入会金の徴収・住所調査

- 平成10年3月に電気電子工学科卒業生および電気電子工学専攻修了者から、入会金5千円を徴収。
- 名簿、湖鳥会会報 No.5,6、記念品（テレフォンカード）を配布。
- 卒業後の住所調査。
- 会費の未納者のチェック。

5. 講演会の主催

- 「就職講演会（希望者への心構え）」を主催して開催。
- 日時：H10年4月16日
- 場所：工学部第31番講義室
- 講師：福田宏氏（日立超LSI（株））
- 参加者：学生135名、教官8名

6. 工学部同窓会との連携

- 工学部同窓会幹事会（大木）
- 工学部同窓会海外渡航奨学金審査委員会に参加（大木）

7. H10年度理事会の準備作業

- H10年度理事会の開催準備として、開催通知、事業報告、事業計画などの作成。

8. その他

- 広く会員からの意見などを受け入れ、会員相互の親睦のための活動。

平成10年度湖鳥会事業計画

1. 会員名簿の改訂、管理（継続）と発行

- 住所不明者などの調査と同窓生データベースの管理。
- 各研究室毎に卒業生の現住所を調査・改訂。
- 本年は、1998年（平成10年）版の名簿を1998年12月に発行予定。

2. 入会金の徴収および記念品の配布

- 1999年（平成11年）3月に電気電子工学科（第7回）卒業生、電気電子工学専攻修了者から、入会金を徴収予定。
- 1998年（平成10年）発行の名簿、湖鳥会会報 No.7、記念品（テレフォンカード）の配布と卒業後の住所調査。

3. 湖鳥会会報 No.7 の発行（12月発行予定）

- 今年度は、経費削減のため、8月末までに会報の編集作業を終える。

4. 記念テレフォンカードの作成

- 新規入会者への配布用テレフォンカード（記念品）作成。

5. 工学部同窓会との連携

- 工学部同窓会（幹事長：北川）
- 工学部同窓会幹事会（北川）
- 工学部同窓会海外渡航奨学金審査委員会（大木）
- 鳥取大学創立50周年記念・募金事業を工学部同窓会（電気電子工学科）として協賛した協力活動

6. 同窓会名簿の作成、発行

- 10月 名簿内容の確認、修正作業
- 11月 印刷
- 12月 発行

7. その他

- 広く会員の皆様からのご意見をいただき、会員相互の連絡・親睦に役立つ活動の推進。

平成9年度決算報告および平成10年度予算案

平成9年度決算報告

収入（1997.4.1～1998.3.31）

項目	予算	実績	備考
設立基金	0	0	0件
入会金	400,000	255,000	51名
会費	500,000	770,970	129名
その他	0	0	
小計	900,000	(1)1,025,970	決算へ

支出（1997.4.1～1998.3.31）

項目	予算	実績	備考
会報発行	500,000	395,910	
アルバイト	100,000	94,500	
事務費	20,000	2,940	
会議費	50,000	0	
通信費	50,000	7,310	
謝金(講演会)	—	20,000	
記念品(2名)	—	15,358	
その他	50,000	0	
小計	770,000	(2)536,018	決算へ

決算（1997.4.1～1998.3.31）

(3)1997年度収支	(1)-(2)	489,952
(4)1996年度繰越金		3,566,332
(5)1998年度繰越金	(3)+(4)	4,056,284

預貯金残高（1998.3.31現在）

郵便局 振込口座（設立基金）	477,120
郵便局 振込口座（会費）	2,363,810
郵便局 定額貯金	1,000,000
郵便局 普通貯金	93,303
銀行 普通預金	122,051
合計	4,056,284

平成10年度予算案

収入（1998.4.1～1999.3.31）

項目	平成9年度決算	平成10年度予算
設立基金	0	0
入会金	255,000	400,000
会費	770,970	500,000
その他	0	0
前年度繰越金	3,566,332	4,056,284
合計	4,592,302	4,956,284

支出（1998.4.1～1999.3.31）

項目	平成9年度決算	平成10年度予算
会報発行	395,910	500,000
名簿発行	—	2,300,000
名簿管理と アルバイト代	94,500	150,000
支部結成準備費	0	100,000
事務費	2,940	20,000
会議費	0	50,000
通信費	7,310	50,000
謝金(講演会)	20,000	—
記念品(2名)	15,358	—
その他	0	50,000
次年度繰越金	4,056,284	1,736,284
合計	4,592,302	4,956,284

- 謝金(講演会)は平成9年度予算に組み入れておりませんでした。学内理事の合意の上でおこないました。
- 記念品(2名)は平成10年3月末で電気電子工学科から退職された2名の教職員の方への記念品として使わせていただきました。
- 本年度支部結成準備費を設けさせていただきましたので、ご利用お待ちしております。申し出は会長(鷺見:E-mail:ysumi@tt.sanyo.co.jp)または(北川:E-mail:kitagawa@ele.tottori-u.ac.jp)経由でお願いいたします。

湖鳥会からの通信

会長より一言

湖鳥会の皆様、ここに第7号の会報を発行できますことを、湖鳥会を代表して感謝申し上げます。当初無理と思われていた毎年発行を、会員皆様の暖かいご支援とご要望に沿えるよう編集委員で奮闘いたしました。今後ともますます充実した同窓会活動の一翼を担う会報に成長することを期待して、会員皆様の更なるご支援を（会報への原稿送付・会費納入についても）よろしくお願い申し上げます。

湖鳥会 会長 鷺見 育亮

編集者の声

湖鳥会会報の第7号が完成し、皆様のお手元に配送することができました。記事を書いていただいた関係者各位および編集に協力していただいた教職員および同窓生の皆様に感謝いたします。前回より会報は原稿を電子メールで集め、画像はイメージ・スキャナでコンピュータに取り込み加工しております。組版・編集も日本語 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ でおこなっています。すっきりとしたものになり、見易いものとなっております。今回の編集は、院生の小引 裕司 君の全面的な協力を得ました。

湖鳥会 編集委員 一同
鷺見 育亮, 北川 雅彦, 大木 誠,
藤村 喜久郎, 田中 省作,
岸田 悟, 安東 孝止

WWW ページの開設準備

WWW: 湖鳥会もインターネット上でWWWによる情報発信をする予定です。現在はまだ、水面下で計画中です。第6号でもご案内いたしましたとおり、現在、準備が進められていますが、やや遅れております。

通信メールアドレス: 同窓会専用アドレスを準備することを予定しておりますが、当面幹事のアドレスで同窓生（19xx 年卒）のメモ付きで通信下さい。
湖鳥会 幹事 一同



会費納入のお願い

湖鳥会は皆様の納入された会費により運営されています。この会報、名簿の発行、各種行事への参加なども皆様から納入された会費により成り立っております。会費の納入率は低迷しており10%台を下回っております。どうか納入にご協力お願いいたします。なお、会費未納の方は封筒に記載されている会員番号の下2桁の数字（00,01,11が付いている）でわかります。

- (00): 設立基金・入金会未納 会費未納
 - (01): 設立基金・入金会未納 会費納入済
 - (11): 設立基金・入金会納入済 会費納入済
- 湖鳥会 会計担当者

電子メールアドレス

会長および学内幹事の電子メールアドレスを以下にのせておきます。湖鳥会へのご意見やこの欄での記事等がありましたら連絡をお願いいたします。

氏名	電子メールアドレス
鷺見 育亮	ysumi@tt.sanyo.co.jp
北川 雅彦	kitagawa@ele.tottori-u.ac.jp
大木 誠	mohki@ele.tottori-u.ac.jp
藤村 喜久郎	fujimura@ele.tottori-u.ac.jp
岸田 悟	kishida@ele.tottori-u.ac.jp
安東 孝止	ando@ele.tottori-u.ac.jp
田中 省作	tanaka@ele.tottori-u.ac.jp

鳥取大学電気電子工学科同窓会

「湖鳥会」事務局連絡先

〒680-8552

鳥取市湖山町南4丁目101番地

鳥取大学 工学部

電気電子工学科 気付

電気電子工学科同窓会 「湖鳥会」

TEL: 0857-28-0321 (代)

FAX: 0857-31-0880